

選考委員長講評

梅光学院大学 学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で10回目を迎え、これまで380もの団体が応募して下さっています。当初は、年々応募団体が減っていくのではと危惧していましたが、今年度は昨年度より増え、しかも新規の応募団体が全体の74%にあたり、例年の60%台と比べると高く、新たな広がりが見えているのが特長です。

応募団体全体を見ると、規模・活動内容共、大きく活発で認知度も高い団体から、地道な活動をコツコツと継続してこられた団体までさまざまでした。また、これまでにない伝統文化関連団体等ユニークな活動も見られました。

今回応募下さった団体は35団体で、1次選考では各分野を念頭におきながら11団体に絞り、2次選考で優秀賞4団体を選びました。

今回の受賞団体は、規模はそれほど大きくはありませんが、自分達で、地域にあった活動を積み上げてこれ、やりがい・生きがい感を持って、楽しみながら自らの元気・パワーを明るく地域に発信し続けておられることが特長です。また、学生の部は1団体の応募でしたが、今回は残念ながら、次年度に期待したいとの願いを込めて「該当なし」とさせて頂きました。今回選にもれた団体も、次に向けて“いきいき”と活動を続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して頂きたいと思います。最優秀賞、優秀賞団体の授賞理由は以下の通りです。



○ママプラスバンド いしんぴよびよ隊（最優秀賞・山口県知事賞）：くらしづくり分野

日頃の練習に力を入れ、サクソ、トロンボーン、フルート、ピアノ等10種類近くの楽器で編成し、40曲以上というレパートリーの広さ、また、キッズも含めたメンバーは総勢90名と多く、子どもたちと一緒に舞台上に立ち、明るく活発に幅広く、精力的に活動していることを評価。お菓子の廃容器で楽器を作り、観客を巻き込んだ活動を精力的にしておられるところも評価されました。これからもこの活動を続けることによって、音楽で地域を元気にしてほしいと思います。

○CAP下関（優秀賞・朝日新聞社賞）：子育て分野

立ち上げ当初から16年間継続して活動していること、CAPプログラム実施が減少している中、子どもへの暴力防止のために、独自の活動を実施しようと、子育て支援事業をスタートさせ、「子育て支援ミニ講座&交流の場」を設けたり、「コンサート」の開催や広報活動にも継続して取り組んでいること、また若手のCAPスペシャリストの養成を行なっている実績が評価されました。

○朗読ボランティアグループおとづれの会（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：福祉分野

視覚障がい者への朗読ボランティアだけでなく、高齢者施設を訪問し、自作の紙芝居や朗読劇を上演し、多くの方から大いに喜ばれていること、中・高校生を対象とした講座も実施し、活動を次世代につなげていこうとしておられること、また、グループの中に93歳の方もおられ、高齢であっても人の為に役立ちたいという思いとそのパワーが評価されました。

○明木母親クラブさくらんぼの会（優秀賞・山口新聞社賞）：地域づくり分野

27年間もの長い間、活動していること、少子高齢化が進む中山間地にあって若い世代のお母さんたちが主体になり、高齢者の方も一緒に楽しむ舞台芸術フェスティバル小公演の開催や手作りプレゼントを持って子どもたちと一緒に独居の高齢者の方のお宅訪問など、世代間交流を大切に、さらに地域のお祭りの企画・運営等、地域活性化に向けた活力ある活動が評価されました。

最優秀賞（山口県知事賞）

ママブラスバンド いしんぴよぴよ隊

代表者 松本 睦（くらしづくり分野／下関市）

活動の動機・目的

「ママになっても音楽を楽しみたい」「親子で音楽を楽しみたい！」そんな親子が集まり、バンドとして、ママサークルとして活動している。

音楽を通じて、孤独な育児にならないように親子での今の時間を楽しんでもらうために、「一緒に楽しめて元気が出る」そんなステージを目指して日々、練習やステージに取り組んでいる。

活動の内容

ママ&キッズメンバーで構成され、親子でステージを盛り上げる。総メンバー数は大人28名、子供62名の総勢90名で編成。楽器編成は、フルート、クラリネット、サクソ、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォ、パーカッション、ピアノ等。

①下関市内で子育て支援イベント、子育て支援施設などで依頼を受けて活動。

児童クラブ出前講座やふくふくこども館第1回ふくふくフェスタ、下関市立ひこまるクリスマス会など多数。

○演奏だけでなく、歌あり・踊りありの会場参加型ステージを展開。指揮者をおかないビッグバンドスタイルでお客様により近く、親しみやすいステージをお送りしている。

○オリジナル編曲、ステージサイズや音量制限にあわせた編成でのアンサンブルステージも実施。キッズメンバーも出演し、おんぶや抱っこ、ベビーカーでの参加もある。そのステージは子育て中のママさんなどにも人気。皆さんと同じ状況だからこそ、より遠慮なく「お互い様」で楽しんで頂くスタイルを心がけている。メンバーそれぞれが無理なく、参加しやすく、活動しやすいスタイルで出演している。

○親子でエコ活動にも積極的に取り組み、「身近なモノで楽器を作り、より音楽を気軽に楽しもう」とお菓子の廃容器やペットボトルを利用した「エコマラカス」を制作して、演奏に使用している。その楽器で演奏に参加する体験型イベント「ぴよぴよワークショップコンサート」は出前講座で好評。

②定例会（練習）を週2回実施。

③子育てサークルとして、七夕会やクリスマス会、忘年会等を実施。

これからめざしたいこと

出産や育児、仕事や転勤などにより、休団メンバーの入れ替わりもあり、総メンバーは多くても、実動の人数のパラツキがあり、ステージごとにメンバーも変わるので、臨機応変に対応していくこと、依頼に追われる中で、サークル内でのイベント事が少なくなっているのが今後の課題。

演奏を通じて、子育て世代に勇気や元気を与える、そして気軽に音楽を楽しんでいただける・・・そんなステージを目指し、日々進化していきたい。



ふくふくフェスタにて



ぴよぴよ隊
キャラクター
“ぴよこ”

優秀賞（朝日新聞社賞） CAP 下関

代表者 宮木 桂子（子育て分野／下関市）

活動の動機・目的

小学校の絵本サークルの母親たちが、CAP（子どもへの暴力防止）の本に出会い、勉強会をスタート。子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会の実現をめざし立ち上げた。

子どもを暴力の被害者にも、加害者にも、傍観者にもしないために、主に、CAP（Child Assault Prevention）プログラムを学校・幼稚園・保育園に届ける。これは、暴力というテーマを楽しく学び、子どもの人権意識を高め、子どもの「自分を守る力」を引き出す教育プログラムのこと。

核家族化、少子高齢化が進み、近隣の付き合いが希薄な現在、子どもやその家族は孤立しやすく、虐待や暴力の問題を個人で抱えてしまいがち。子ども虐待の発生件数を考えると、早期予防対策が必要。親だけでなく地域住民全てに対する予防啓発を出来るだけ早くすることで、大幅に減らすことができる。定期的な親子の集う場所の提供、CAP 公開講座などで、親、先生、地域の人を繋ぎ、孤立を防ぐ。積極的に子どもを支援しようとする人環境を作り、子どもの自尊感情を育む子どもにやさしい地域を目指す。

活動の内容

①学校・幼稚園・保育園での CAP プログラムを実施（2015年度：1 保育園、1 小学校）。

保育園に行く時は、子どもを怖がらせず、楽しく参加体験できるよう歌や人形劇を取り入れる。

②子育て支援事業をスタート。

子育て支援ミニ講座&交流の場“HotなホッとするCAP@カフェ”へもっと！こどもとなかよくなろうよ～を主催（託児、それぞれお楽しみタイムあり）。

4 日間のテーマは、i 子どもの安心 ii 子どもの心とからだを守る iii 私のイライラどこから？ iv おとなの自信～気持ちを聴く・伝える

③CAP 下関設立 15 周年記念公開講座開催。

「ネット社会を生きる子どもたち」下関市立小学校校長会研修

④活動メンバー養成。

20 代の CAP スペシャリスト誕生。また、シニアの男性スペシャリストが活動に加わり、男性の立場、女性の立場から、非暴力、ジェンダーについての考察が深まっている。

⑤公開講座「障がいのある子どもを支援する為に」～スペシャルニーズプログラム in 山口～開催。

下関市において、CAP スペシャリスト研修。

⑥「希望 丘の上のランチョンコンサートVOL. 2」開催。

⑦例会（月 1 回）と不定期でワークショップ練習。会報発行（年 1～2 回）等。

これからめざしたいこと

「子育て支援事業」は、託児予算、参加費設定、スタッフの確保などを長期的に考え、「すべては、子どもの安心・自信・自由に」をモットーに継続したい。子どもの「自分を大切にする心」を支え、子どもの力を信じ、子どもの本当の気持ちを「聴く」ことのできる大人を地域に増やし、いじめや虐待など子どもへの暴力のない社会の実現をめざす。



CAP 就学前子どもワークショップ

CAP@カフェ
2015



優秀賞（y a b 山口朝日放送賞） 朗読ボランティアグループ おとづれの会

代表者 水田 愛子（福祉分野／山陽小野田市）

活動の動機・目的

山陽町社協の朗読奉仕者養成講座を受講。修了生の希望者で朗読奉仕グループおとづれの会を結成。音を連れて毎月訪れるボランティアの意味で「つ」に「点てん」のづれとした。当時（1980年頃）視覚障がい者のご家庭から「町からの広報が読めず、不自由をしている」と聞き、まずは声の広報発行を実現。他にも新聞、雑誌その他の出版物からセレクトして収録したテープも発行。

点字が読めない人が圧倒的に多い中、正確で聞き易い音訳・録音に専心し、活動は自分の勉強になり、延いては人格の陶冶をめざす。

活動の内容

①音訳テープづくり

○山陽小野田市広報1日号、15日号 ○市社会福祉協議会広報かけはし

○おとづれセクション（毎月1回発行）（月刊雑誌、家の光、ゆうゆう、PHP等各新聞他）

高齢者が多いので、わかりやすく、興味がわくことを視点に、季節感のあるもの、タイムリーな内容を織り込む。テープ読者との架け橋になるよう「おとづれの会」のテーマ曲（地元作曲家のご厚意による）を冒頭に流す。テープを通してコミュニケーションを図り、友情を育んでいこうと考え、表紙担当者が自分の目を見た自然のもの、植物、昆虫、景色空雲、自分の体験等を話す。このことで、親近感を持って自分達を「声友（こえとも）」と呼んで下さる。

②高齢者施設訪問

○おとづれの会考案「とび出す紙芝居」上演。

高齢者は平常テレビに慣れているので、耳だけで表現をイメージするのは、難しい様子なので、新たに考案した。自分たちで描いた大きな紙芝居でクライマックス辺りから登場人物が絵と同じ格好をして音楽にのって飛び出し、朗読・セリフに合わせて動作をつける。

音楽は懐メロや唱歌などで、踊りはすべて創作。衣装は古着や不用品で作し、不織布で縫った着物でおとづれ一座は派手に興行をうつ。これまでに「はだかの王様」「浦島太郎」等作成。

○朗読劇上演。

「金色夜叉」「山椒大夫」など、場面の背景や効果音（波の音等）で臨場感たっぷりに演じる。

③中学生・高校生音訳ボランティア講座

平成9年から、町立3中学校に夏休み開催「ジュニア朗読ボランティア講座」受講生の募集をかけ、引率の教師と共に受講された。その後、厚陽中正課クラブで朗読指導の経緯をふまえ、現在は厚狭高校生徒2名が、厚狭公民館で土日を利用して「朗読の基礎練習」を受講中。

これからめざしたいこと

まだ、この音訳テープの存在を知らない方に、福祉の各種行事の際、積極的に参加し、活動啓発チラシを継続配布していく。テープに加えデイジー図書の発行にも取り組んでいく。また、聞き易い読み方研究のため、県点字図書館の講習や音訳講習会への受講、NHK巡回セミナーで指導を受けるなど、研鑽を積んでいく。



おとづれのメンバー



朗読劇上演
婦系図

優秀賞（山口新聞社賞） 明木母親クラブさくらんぼの会

代表者 田村 菜穂（地域づくり分野／萩市）

活動の動機・目的

明木小学校PTAの母親部会として活動していたが、1988年4月にさらなる躍進を図る為、「さくらんぼの会」と命名して、舞台芸術フェスティバルを始めた。

「家庭及び地域において、児童の健全な育成を推進する為の活動を図り、もって地域児童の福祉の向上に資すること」を活動目的としているが、少子高齢化の進む地区中で、会員自らが自分たちにできることを見つけ、会で検討し、取り入れ、積極的・弾力的に取り組んでいく。

活動の内容

会員の「和（仲良く一致団結）」、地域との「輪（連携）」、人と人との「話（対話）」を大切にしながら、自主的・積極的に次の事業に取り組んでいる。

①文化事業：舞台芸術フェスティバル小公演の開催。

明木の子供たちが心豊かに育つことを願い、平成10年より毎年1回開催。

平成27年の上演内容は、『人形劇 うみはぷくぷく（くわえぱぺっと）』

※世代間交流の場や地域交流の場として子どもから高齢者まで多くの来場者で賑わう。会員が互いに役割分担した上で、出演者と一緒に会場設営などを実施。

②福祉事業：高齢者支援事業。

○独居の高齢者の慰問（2月）。

親子で手作りした小物を訪問時に贈っている。小学生のいない集落もあり楽しみにされる。

○「旭ボランティアグループ芸能発表会」の運営協力（12月）。

③ボランティア事業

旭マルチメディアセンターの環境整備。年2回の花壇作り、七夕飾り作り（6月）、クリスマスツリーの飾り付けとイルミネーション設置（12月）、正月用イルミネーション設置（12月）。

④まちづくり事業：地域振興行事等への参画・運営。

○「明木地区ふるさと祭り」では、プログラムの検討ほか、「お楽しみ抽選会」運営を担当。

○「明木地区農業文化祭」では、会員が子供服や日用品を持ち寄り、フリーマーケットを出店。

「お楽しみ抽選会」や「輪投げコーナー」を担当。「ふるさと祭り」共々昼食づくりを担当。

○地域コミュニティ協議会・明木公民館運営審議会において、地域づくりに女性の視点や幅広い年齢層の意見が求められる中、積極的に子育て世代の女性の意見や気づきを述べている。

⑤「ミントの会」立ち上げ。

小学校卒業生の親たち有志で、手芸品やシフォンケーキなど手作りおやつを製造・販売。

主に地区内の道の駅での販売や、舞台芸術公演日には、会場で販売している。

これからめざしたいこと

小学生52人 34世帯の明木地区で大規模な事業はできないが、その時々で自分たちにできることを見つけ、考えながら様々な事業に取り組み、高齢化率47.84%の中山間地域にとって大きな活力となるべく、活動していく。



独居高齢者宅への
慰問・贈呈用小物を手
作り中



人形劇
「うみはぷくぷく」

コープやまぐち奨励賞 たんぽぽの会小郡『夏休み子ども昭和塾』部

代表者 栗林 由夏（子育て分野／山口市）

活動の動機・目的

昭和40～50年代に小学生だった大人（母親）たちの夏休みは、学校が休みの間は、家庭や地域で深い人間の関わりがあり、目上の人との接し方や協調性、相互扶助など、多々成長させられた記憶がある。「地域が子どもを育てる」「向こう三軒両隣」など、今の子どもたちには無縁とは言わないが、縁遠い話。そんな危惧から、我が子だけでなく、地域の子どもたちに「エアコンもない、ゲームも携帯電話もない、コンビニも無い」昭和の夏休みを体験させようと母親たちが立ち上げた。

昭和の小学生に習い、ラジオ体操に始まり、夏休みの宿題・球技大会の練習に明け暮れた中、協調性や責任感を育て、弱きを助け、共に活動する力を子ども達につけてほしいとの思い。

活動の内容

2010年の夏休みから毎年、夏休み上旬を利用して小学生対象の「夏休み子ども昭和塾」を開催。内容は以下（2015年度）。毎年30～50人の小学生が朝9時までにゴミを拾いながら通塾。

①9時～朝の会のあいさつ 「名文暗唱」

②9時20分～ 夏休みの宿題（共に懐かしい問題を古い頭で解いたり、逆に課題を出してみたり）

③10時～日替わり講義（知・徳・体・食育等の分野を地域の先輩方や外部講師を招く）実施。

初日 「ウン知育教室」・・・山口市食育ボランティア

2日目「大作に挑戦？自由研究？」習字・絵・自由研究・・・山口市子ども会連絡協議会小郡支部

3日目「昭和食育キッチン」・・・ にじの会 食育指導士 かりんとうづくり（パンの耳を使用）。

4日目「防災（天災や戦争）について」・・・東日本大震災のボランティアに毎年行っている代表者による復興状況報告と戦後70年を踏まえ、戦争関連の絵本の読み聞かせと感想交流等。

5日目「花燃ゆの我が小郡を学ぶ」・・・小郡文化資料館スタッフ（山口市観光課お気軽講座）

6日目「手作り紙芝居による山口昔話」・・・小郡昔話研究会

7日目「エネルギーについて考える」・・・中国電力わくわくEスクール（実験あり）

④10時40分～ 野外活動、ドッチビーの練習。

⑤12時 あいさつ、終了。

最終日には、みんなで奉仕作業実施。子供会が作っているサツマイモ畑の草取りや地区のゴミ拾いを行った。毎年母親たちからの手作りクッキー等のお土産と手作りの終了証を渡している。

これからめざしたいこと

どの子ども達からも「楽しかった！また来たい！」と言われ、夏の苦労が報われる。学年が違う子ども同士なので、喧嘩もあったり、本気で怒ることもあるが本当に懐いてくれて嬉しい。その中で「子どもは宝」と、どの子どもも我が子のように接して、得るものの大きさを感じた。

6年経過して、ずっと活動してきた人、入れ替わり新しく活動に加わった人などいるが、1地区でなく、もっと活動する地域を広げ、仲間を増やすことも望むところ。さらに、メンバーが一ボランティアで終わるのではなく、それぞれ地域活動や男女共同参画に声を上げる、旗を振ることのできるイニシエーターになれるよう、そういう後継者を育てていくことを目指す。



紙芝居「山口昔話」



昭和食育キッチン
「かりんとう作り」

コープやまぐち奨励賞 秋穂手話サークルしいのみ会

代表者 福江 康人（福祉分野／山口市）

活動の動機・目的

地域の人からの要請もあり、障がいのある人が地域でくらしやすく気軽に手話でお話ができるよう支援、孤立感の解消と未来のある子どもたちの障がい者への理解をめざす。

活動内容

①定例会（月2回）開催。

○会員で手話奉仕員（女性）の資格者が中心となり、勉強会を実施。構成員は男性2名（内聴覚障がい者1名）、女性6名。聴覚障がい者に日常使っている手話を習いながら、NHKのテキストを使って勉強している。

○耳の不自由な人が住んでいる地域の勉強会や、小学校から要望があった時の具体的な内容を話し合って講習会に臨んでいる。

②小学校からの要請（秋穂小学校4年生の体験学習の一環として）があった時、耳の不自由な人の日常生活で困った事、不自由なことなどを手話を交えて話し、ユニバーサルデザインの勉強にも協力している（年1回）。

例えば玄関のチャイムの代わりに、ランプが点滅したり、病院での受付の配慮など。機材を借りてきて、実際に体験したり、手話であいさつや歌を一緒に行った。

③聴覚障がい者（現在2名）の住んでいる地域の住民に区長さんを通じて手話勉強会（毎月1回夜）を公民館で実施。10～15名の方が参加。地域の勉強会には他地域の方も4名参加されるようになり、輪が広がってきた。

④耳の不自由な人の生活や健康、災害時の避難方法、救急車の介助など、講習会と一緒に参加して通訳をし、地域の人と一体となって対応している。

⑤地域の行事（敬老会や防災講座等）の通訳。

これからめざしたいこと

小学校の体験学習で、子ども達一人ひとりが感想文を書いてくれて大変嬉しかった。「耳の不自由な人の大変さがわかり、やさしくしたい。」との感想が大半。地域で役に立てているという思いが実感できた。また、メンバーで資格をもっている人（77歳）に教えてもらえることで、仲間同士楽しく長く続けていくことができる。

課題は若い会員不足や財源不足。また、手話がまだ未熟な上、高齢なのでなかなか活動ができないのが現状。しかし、地域内で困っていることを聞いて力を貸してあげたいと思っている。

今後も障がい者の自立支援や未来ある子どもたちの障がい者に対する理解や偏見解消をめざして、少しずつだが進めていきたい。



地域での手話勉強会



手話体験学習
～小学4年生対象～

コープやまぐち組合員賞 もみの木広場

代表者 福重 和代（子育て分野／山陽小野田市）

活動の動機・目的

地域子ども達が本に触れ、読書の楽しみを感じること、本を通して多くの知識感動をもち、心豊かに育つ子どもの育成につなげること、喜怒哀楽などの情緒を本を通して育てること、親子読書を推進することで、親子の関係作りにつなげること、図書館での活動を通して、より多くの人が図書館に来館することにつなげることを目指す。

活動の内容

①山陽小野田市立中央図書館で第1、第3土曜日に30分程度、幼児・児童を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居を実施。

身近にある図書館で定期的に読み聞かせの会があることで、気軽に親子で参加することができ、楽しみにしてくる子も何人かいる。この活動は、本グループの読み聞かせのベースにもなっていて、選書や読み聞かせの工夫など試行錯誤しながら取り組んでいる。

②近郊の小学校（高千帆、厚陽）や幼・保育園（出合、焼野）、児童館、高齢者施設等に出向き、人形劇や紙芝居、読み聞かせ、エプロンシアターを上演する。

○小学校では学期末に読み聞かせを実施。学年に応じた本の紹介（ブックトーク）や科学もの、語り、人形劇、最近では、英語の絵本や民話なども取り入れるようにしている。

○幼稚園や保育園では、音楽や体の動きのある絵本を紹介して、子どもたちも参加しながら楽しめるようにしている。

③定例会開催（月2回）。

人形劇の練習と小道具の作成を実施。読み聞かせについての打ち合わせも行う。定例会や日々の交流で、共通理解等充実した活動となっている。音響担当・小道具担当・人形作り、台本作り等1人1人のもてる個性に合わせ役割分担をしている。

④年1回、旧小野田市内読み聞かせグループが一堂に集まり、人形劇祭りを図書館で実施。

2015年度は

- | | |
|---------------------|-----------|
| ・人形劇 「はいしゃのチューせんせい」 | もみの木広場 |
| ・大型紙芝居「まんじゅうこわい」 | 有帆もみの木広場 |
| ・人形劇 「かに子ちゃんとさるどん」 | 高千帆もみの木広場 |
- 他に「すえおはなしの会」も参加。

これからめざしたいこと

子どもたちの本離れやゲーム、テレビ、塾やスポーツクラブといった日々の忙しさゆえ、ゆとりを持って親子で一緒に本を楽しむ時間を持たない社会状況の中、こうした読書活動を通して、少しでも心豊かな子どもの育成につなげていきたい。そのために、日々頑張って活動していく。



人形劇
「ソメコとおに」
／出合保育園



読み聞かせ「ちりんのすず」
／厚陽小学校

コープやまぐち組合員賞 えじそんのたまご

代表者 奥原 和美（子育て分野／防府市）

活動の動機・目的

母子通園型の療育施設で出会った保護者15人でスタート。最初の3年は子育てから離れ、「自分の時間を持とう！」をテーマにフレームアート、消しゴムはんこ作りを楽しんだり、親子でかき氷パーティーをしたりしていた。その後、メンバーから「みんなでゆっくり話がしたい」「悩みを聞いてほしい」などのニーズが出てきたため、2014年より茶話会形式に変更。現在に至る。

発達がゆっくりなお子さんの子育てをされている保護者を対象に、不安解消・仲間作り・情報交換ができるように、保護者にとって居心地の良い場所を提供することを目的とする。

活動の内容

「えじそんのたまご」はテレビで以前、「エジソンの母」というドラマがあり、そこから名前を付けた。通称『えじたま』と呼んでいる。2016年度から「えじたま」に改名する予定。

① 茶話会を実施（7・8・12・3月を除く月1回、AM10:00～AM12:00）。

場所）コープはなまる集会室（防府 組合員集会室）

○毎度、15名位が参加。発足当時のメンバーの中には、仕事復帰などで都合がつかず、なかなか参加できない人もいる中、最近はメンバーから誘われて、新しい方が茶話会に来られるようになった。

○参加費は無料とし、いつ来てもいつ帰ってもいいようにしている。

○基本はフリートークとしているが、特に共有したい話題がある人は、「みんなに聞いてみたいこと カード」に記入してもらい、世話係りが進めていく。

内容例は、「支援学校と支援学級の違いは？選択はどのように？」「デイサービスの情報」「宿題を嫌がるんだけど、いい方法は？」他、家で困ったことや悩んだことを自由に言えるようにしている。中学生や高校生のお母さんも時々参加されるので、経験者として、話を聞いたりのやり方としてアドバイスをしていただいている。

②ちらしを発行（年1回）し、茶話会の日時を紹介。

療育施設、病院、支援センター、市役所に持参している。

③子育て支援カレンダー「ぬくぬく」や山口市・防府市在住の子育て中のママたちが、企画・取材協力を行う「子育て家族応援フリーマガジン」「mama toko」でも、茶話会日時を紹介頂いている。

これからめざしたいこと

茶話会には、療育施設等の紹介やチラシを見た参加者も増えてきた。メンバー以外にも、いわゆるグレーと言われるお子さんをお持ちの方、発達障がい以外の障がいのお子さんをお持ちの方も来られる。

「ここに来れば気持ちが楽になる。」と思え、明日への意欲を取り戻していただける場を作っていきたい。また、『えじたま』で共有した悩みや要望を、行政に伝えることができるほど、信頼していただける団体になり、防府の障がい児やお母さんを取りまく環境改善につなげることができるように頑張っていきたい。



茶話会